



第395号 (令和4年6月1日(水)発行)

発行所 京都女子大学 宗教部 京都市東山区今熊野北日吉町35 電話 075 (531) 7074

戦いの場で 百万の敵にうち勝つ 人よりも 自己にうち勝つ その人が まことに真の 勝利者よ 「ダンマバダ」一〇三 京都女子大学「聖典」一〇六頁



落ち

仏教学非常勤講師 清基秀紀

卒業の歌

藪内流のお家元で茶道を学んでいた関係で、大学の茶道部の指導することになり、もうずいぶんになる。 点前や作法だけでなく、茶道の背景にあるさまざまな日本の伝統文化を学んで欲しい、お稽古の時にいろいろな話を。お茶碗の話、季節に対する感性の話、京都の文化、直接的な造形を好まず、ほのめかすという京都の生菓子の特徴など話は尽きない。

毎週、いただいた和菓子をいくつか持ってきて、京菓子の伝統や文化や銘について実物を前に解説もする。 いろいろな和菓子を試食した学生は、恩義を感じているのか、茶道部の卒業茶会の後で歌を歌ってくれることになった。

何の歌だと思われませんか？ 卒業の歌という時代によって様々だが、茶道部では伝統的に「仰げば尊し」を歌う。

なぜだか解りますか？歌は「仰げば尊し」で始まりますが、歌詞の続きを思い出してください。

「わがしのおん」 そう、「和菓子の恩」なんです。

私の話は、オチのつく話が多いが、関西人の話にもオチがつく。

関西の人が話し終わった時に、関西人は何かを待つようです、「で、オチは？」と聞いてくる。

お笑い文化で育った関西人にとって、話にはオチがあるのがあつうで、面白いオチがない時も、最後に「知らんけど」とつけてオチにする。

オチといえば落語には必ずオチがある。私は上方の古典落語が大好きで、桂米朝の落語はCD全集を持ってよく聞く。話術のうまさはさすがで、同じ話を何度聞いてもおもしろい。間の取り方や、話し方など、講義の参考にもなっている。

その落語のルーツもお説教なのである。新京都極にある誓願寺にいた安楽庵策伝は説教の名人として有名で、策伝が人気があつたからである。

その策伝と著作「醒睡笑」は落語の始まりとされ、いまでも誓願寺で落語会がよく行われている。

お説教 仏教のありがたい話、難しければ伝わらない話

い。時代や人にあわせて、わかりやすく教える必要がある。工夫をする必要がある。

最近では漫才師が、おもしろおかしく仏教の解説をしているのをテレビで見ると、言葉の説明など「知識」が誇張して語られるが、仏教の大切な「教え」は語られない。煩惱の教え方を知らなくても、それによって生き方や考え方が変わることはない。

人生に活用でき「智慧」とはならないのである。 どう伝えるかより、何を伝えるのかが大切なのだ。

教えとしての仏教をわかりやすく説くのは難しいが、身近で的確な比喻を使えばうまく伝えることができる。

親鸞は「現生正定聚」を説いたが「正定聚」とは、仏に成る身と定まつたことを意味する。 仏教の目標はさとして 仏に成ることだが、その修行中の菩薩が、ある段階までいけば、そこから後退することなく、必ず仏に成ることが約束される。

經典では浄土に往生すれば正定聚に定まるとあるが、親鸞は、その浄土への往生は、阿彌陀仏の本願への信が定まった時

に約束されるのだから、往生して成仏することが約束されるのは、生きていて現生で正定聚が成り立つのである。

この論理は画期的だった。 臨終に仏のお迎えが来る心配したり、死の間際まで死後の往生や成仏を心配して不安な人生を送らなくても、生きていく間に成仏が約束され、安心して人生を送ることができた。この世で「救い」が成り立つのである。

これら「オチ」といふものが、私たちの人生を形作る。

「オチ」といふものが、私たちの人生を形作る。

これをわかりやすく伝えるために学生に、子どもの頃から受験のために勉強を続けてきたのは何のためだったのかと問いかける。

大学に入るためなら、入学式に出席して初めてよるこびを感じるのかもしれないと、合格通知をもらった時だと答えが返ってくる。

まだ手続きもしていないのに、「大学に入れた」と受験勉強から解放されて安心を得られるのは、大学生になれるとの約束をもらった時なのだ。

親鸞は、それを「往生を得る」と表現する。 往生を得るとは、往生が定まることであり、仏に成る身と定まるといふことである。

これを、「この世で往生する」と誤解する人がいるが、この世で浄土往生するならば、この世は浄土でなければならぬ。 親鸞自身も、誤解のないように、即得往生とは往生が定まることだと著作の中で説明している。

オチには伏線がある。 浄土に往生して仏に成るといふ行き先のある人生を歩む時、人生の歩みは歩む時、人生の歩みは歩む時、人生の歩みは歩む時

浄土に往生して仏に成るといふ行き先のある人生を歩む時、人生の歩みは歩む時、人生の歩みは歩む時

浄土に往生して仏に成るといふ行き先のある人生を歩む時、人生の歩みは歩む時、人生の歩みは歩む時

浄土に往生して仏に成るといふ行き先のある人生を歩む時、人生の歩みは歩む時、人生の歩みは歩む時

浄土に往生して仏に成るといふ行き先のある人生を歩む時、人生の歩みは歩む時、人生の歩みは歩む時

浄土に往生して仏に成るといふ行き先のある人生を歩む時、人生の歩みは歩む時、人生の歩みは歩む時

浄土に往生して仏に成るといふ行き先のある人生を歩む時、人生の歩みは歩む時、人生の歩みは歩む時

い、浄土に往生させてくれる。 どんな私たちがあつても救いのめあてとなるが、あえて悪をおかしたり、どんな生き方をしてもいいということではない。

多くの命をいただいたて生きた私たちがあつても、それを当たり前前だと 阿彌陀仏は煩惱をかかえたままの私たちを救

等しく救おうとする阿彌陀仏の本願の前では、「いただきます」と、せめて多くの命に感謝をする人は多い。 こうした正義という性質は、仏の教えについてのみ言えることではない。

浄土往生というオチのある人生。そこへと続く一歩一歩こそ、私たちがしっかりと歩むべき命の道なのである。

浄土往生というオチのある人生。そこへと続く一歩一歩こそ、私たちがしっかりと歩むべき命の道なのである。

浄土往生というオチのある人生。そこへと続く一歩一歩こそ、私たちがしっかりと歩むべき命の道なのである。

浄土往生というオチのある人生。そこへと続く一歩一歩こそ、私たちがしっかりと歩むべき命の道なのである。

令和4年6月月例礼拝日程表

Table with columns: 日曜日, 曜日, 講時, 対象学生, 担当

令和4年7月月例礼拝日程表

Table with columns: 日曜日, 曜日, 講時, 対象学生, 担当

京女への通学路 いまむかし

③1940年 東山三校の北門



一九二〇年に「女子大学」に代わる「最高学府」として京都女子高等專門学校(女専)が設立されたこと、 「高女」「裁女」「女専」という三つの女子学校が揃い、「東山三校」と呼ばれるようになり、高女創立三〇年、女専設立二〇年を記念して一九四〇年に建てられた第一〇校舎と東山三校の「北門」を収めたもので、一九四一年度裁女の卒業アルバムに「北門」といわれても「ああ、あれだ」とは、すぐに思い至らないことでしょう。 東山総合支援学校のグラウンドの塀に沿った細い路地を入ったところにあります。 いまもよく似た門柱が立っています。

史学科 坂口満宏

滯標

勸善懲惡ものこのコンテキストには、しばしば「正義の味方」が現れる。 注目したいのは、「正義」そのものではなく、あくまで「味方」に留まることである。 ここには、「正義の側に立ちたいが、完全なる正義そのものにはなれない」という、悲哀が感じられる。「正義」は仏教では「しようき」と読む。 これは、仏の説いた教えに、私たちが仏に成れるよう導く意義があることを示している。 こうした正義という性質は、仏の教えについてのみ言えることではない。

浄土往生というオチのある人生。そこへと続く一歩一歩こそ、私たちがしっかりと歩むべき命の道なのである。

浄土往生というオチのある人生。そこへと続く一歩一歩こそ、私たちがしっかりと歩むべき命の道なのである。

浄土往生というオチのある人生。そこへと続く一歩一歩こそ、私たちがしっかりと歩むべき命の道なのである。

浄土往生というオチのある人生。そこへと続く一歩一歩こそ、私たちがしっかりと歩むべき命の道なのである。

浄土往生というオチのある人生。そこへと続く一歩一歩こそ、私たちがしっかりと歩むべき命の道なのである。



現代社会学部教授 巨 明志

ソーシャル・ディスタンスとダイバースィティ

社会学と社会的距離

新型コロナの感染拡大が問題になり始めた頃、突然人びとの間で語られるようになった言葉のひとつに、ソーシャル・ディスタンス(社会的距離)という語があった。その意味するところは明瞭で、人と人との距離を保つことによって、密集することを避け、感染することを予防する点にあり、今ではかなり定着している。しかし、当初、社会学者としてはこの「ソーシャル・ディスタンス」という用語の使い方に大いに違和感があつた。もちろん、人と人との間に距離を保つことによるコロナ感染抑制にはそれなりに合理性があることについてはまづたたく

異議はない。そうではなく、社会学では「ソーシャル・ディスタンス」という用語はコロナによって定着したのとは少なからず異なった意味で使用されていたからである。社会学者といっても、偏見や差別意識を研究対象とする人であれば、知らないかもしれないのだが、集団に対する親密さや疎遠さを表現するものとして「社会的距離」という用語が使われているのである。たとえば、アメリカの西海岸の人種の親密度を量的に把握するためのスケール(尺度)として、ボガダスが開発した「社会的距離尺度」は比較的知られていて、調査研究でもよく使われてきた。

ボガダスの社会的距離尺度では、インフォーマントは様々な(人種)集団に対し、(1)婚姻によって親戚関係になつてもよい、(2)親友として社交クラブに参加してもよい、(3)隣人として近所に住んでよい、(4)同僚として職場に来てよい、(5)市民として自分の国に来てよい、(6)訪問者としてのみ来てよい、(7)自分の国から出て行ってほしい、という七つの項目のどれに該当するかを答え、対象集団との距離を測定する。ここからコロナ禍の中で使われるようになったソーシャル・ディスタンスとはかなり異なる意味であることがわかると思う。

「距離」という概念の社会学への導入はドイツの社会学者、ジンメルの功績だつたようだ。それは空間的には近いところにいるにもかかわらず、心理的には疎遠な関係になるという現代社会の都市化状況を、「距離」という概念で把握しようというねらいがあつた。それゆえ、ボガダスほかのアメリカ社会学者が測定する概念としてスケール化したことは、ジンメルのねらいの一部を先鋭化したものと言えるだろうが、元々もつていた多様な意味合いをそぎ落とすことになつたことは否定できない。

「距離」という概念の社会学への導入はドイツの社会学者、ジンメルの功績だつたようだ。それは空間的には近いところにいるにもかかわらず、心理的には疎遠な関係になるという現代社会の都市化状況を、「距離」という概念で把握しようというねらいがあつた。それゆえ、ボガダスほかのアメリカ社会学者が測定する概念としてスケール化したことは、ジンメルのねらいの一部を先鋭化したものと言えるだろうが、元々もつていた多様な意味合いをそぎ落とすことになつたことは否定できない。

ボガダスの「社会的距離尺度」は比較的知られていて、調査研究でもよく使われてきた。ボガダスの社会的距離尺度では、インフォーマントは様々な(人種)集団に対し、(1)婚姻によって親戚関係になつてもよい、(2)親友として社交クラブに参加してもよい、(3)隣人として近所に住んでよい、(4)同僚として職場に来てよい、(5)市民として自分の国に来てよい、(6)訪問者としてのみ来てよい、(7)自分の国から出て行ってほしい、という七つの項目のどれに該当するかを答え、対象集団との距離を測定する。ここからコロナ禍の中で使われるようになったソーシャル・ディスタンスとはかなり異なる意味であることがわかると思う。

ボガダスの「社会的距離尺度」は比較的知られていて、調査研究でもよく使われてきた。ボガダスの社会的距離尺度では、インフォーマントは様々な(人種)集団に対し、(1)婚姻によって親戚関係になつてもよい、(2)親友として社交クラブに参加してもよい、(3)隣人として近所に住んでよい、(4)同僚として職場に来てよい、(5)市民として自分の国に来てよい、(6)訪問者としてのみ来てよい、(7)自分の国から出て行ってほしい、という七つの項目のどれに該当するかを答え、対象集団との距離を測定する。ここからコロナ禍の中で使われるようになったソーシャル・ディスタンスとはかなり異なる意味であることがわかると思う。

ボガダスの「社会的距離尺度」は比較的知られていて、調査研究でもよく使われてきた。ボガダスの社会的距離尺度では、インフォーマントは様々な(人種)集団に対し、(1)婚姻によって親戚関係になつてもよい、(2)親友として社交クラブに参加してもよい、(3)隣人として近所に住んでよい、(4)同僚として職場に来てよい、(5)市民として自分の国に来てよい、(6)訪問者としてのみ来てよい、(7)自分の国から出て行ってほしい、という七つの項目のどれに該当するかを答え、対象集団との距離を測定する。ここからコロナ禍の中で使われるようになったソーシャル・ディスタンスとはかなり異なる意味であることがわかると思う。

「距離」という概念の社会学への導入はドイツの社会学者、ジンメルの功績だつたようだ。それは空間的には近いところにいるにもかかわらず、心理的には疎遠な関係になるという現代社会の都市化状況を、「距離」という概念で把握しようというねらいがあつた。それゆえ、ボガダスほかのアメリカ社会学者が測定する概念としてスケール化したことは、ジンメルのねらいの一部を先鋭化したものと言えるだろうが、元々もつていた多様な意味合いをそぎ落とすことになつたことは否定できない。

なぜ紫陽花の名前を使っているのかを尋ねたところ、次のように説明してくれた。紫陽花の花びらは小さいけれどもそれぞれ独立していて、色も微妙に異なっている。そのような小さな花びらが集まって、ひと房の紫陽花となる。紫陽花の花のように、一人ひとり自立し違つていて、互いに力を合わせ、心を通い合わせる事ができる。そんな場所にしたかった。

現在のキーワードで言うと、「ダイバースィティ(多様性)」ということだ。長い大学教員生活の中でも新型コロナの感染拡大が問題になつてからの変化は、大きな変化は体験したことではない。確かに、コロナ禍は大学の中に「距離」をもたらした。しかし、その「距離」は

「距離」という概念の社会学への導入はドイツの社会学者、ジンメルの功績だつたようだ。それは空間的には近いところにいるにもかかわらず、心理的には疎遠な関係になるという現代社会の都市化状況を、「距離」という概念で把握しようというねらいがあつた。それゆえ、ボガダスほかのアメリカ社会学者が測定する概念としてスケール化したことは、ジンメルのねらいの一部を先鋭化したものと言えるだろうが、元々もつていた多様な意味合いをそぎ落とすことになつたことは否定できない。

紫陽花の名前を使っているのかを尋ねたところ、次のように説明してくれた。紫陽花の花びらは小さいけれどもそれぞれ独立していて、色も微妙に異なっている。そのような小さな花びらが集まって、ひと房の紫陽花となる。紫陽花の花のように、一人ひとり自立し違つていて、互いに力を合わせ、心を通い合わせる事ができる。そんな場所にしたかった。

現在のキーワードで言うと、「ダイバースィティ(多様性)」ということだ。長い大学教員生活の中でも新型コロナの感染拡大が問題になつてからの変化は、大きな変化は体験したことではない。確かに、コロナ禍は大学の中に「距離」をもたらした。しかし、その「距離」は

法のことば

戦いの場で 百万の敵のうち勝つ 人よりも

自己にうち勝つ その人が

まことに真の 勝利者よ

〔ダンマパダ〕一〇三
京都女子大学『聖典』一〇六頁

仏教が、他者との争いをよとせず、特に暴力の行使を戒める宗教であることは、皆さんもご存知のとおりです。釈尊はここで、「敵」にうち勝つことばかりに気をとられがち私たちに向けて、鋭い対比を用いて語りかけ、自身のすがたに目を向けるよう促します。自己にうち勝つ、というとき、釈尊は、むさぼりといかり、そしておろかさや分かちがたく結びついた私たちのいのちのすがたを見据えています。その克服を目指して生涯歩む道が仏道です。それは、むさぼりやいかり、またおろかさにとらわれた心にただ身をゆだねるのではなく、仏の教えに照らされて、その自身のあり方乗り越えていこうとする生き方として現れてくるものです。(藤井 隆道)

「距離」という概念の社会学への導入はドイツの社会学者、ジンメルの功績だつたようだ。それは空間的には近いところにいるにもかかわらず、心理的には疎遠な関係になるという現代社会の都市化状況を、「距離」という概念で把握しようというねらいがあつた。それゆえ、ボガダスほかのアメリカ社会学者が測定する概念としてスケール化したことは、ジンメルのねらいの一部を先鋭化したものと言えるだろうが、元々もつていた多様な意味合いをそぎ落とすことになつたことは否定できない。

紫陽花の名前を使っているのかを尋ねたところ、次のように説明してくれた。紫陽花の花びらは小さいけれどもそれぞれ独立していて、色も微妙に異なっている。そのような小さな花びらが集まって、ひと房の紫陽花となる。紫陽花の花のように、一人ひとり自立し違つていて、互いに力を合わせ、心を通い合わせる事ができる。そんな場所にしたかった。

現在のキーワードで言うと、「ダイバースィティ(多様性)」ということだ。長い大学教員生活の中でも新型コロナの感染拡大が問題になつてからの変化は、大きな変化は体験したことではない。確かに、コロナ禍は大学の中に「距離」をもたらした。しかし、その「距離」は

お知らせ

宗教・文化研究所公開講座(ご案内)

シリーズ：東山から発信する京都の歴史と文化②
テーマ：京都の朝廷と鎌倉幕府

- 開催日 6月18日(第三土曜日)
- 第一部 13:00~14:30 「後醍醐天皇、討幕への道」 講師 高野山大学文学部専任講師 坂口 太郎 氏
- 第二部 15:00~16:30 「北条義時と鎌倉・京都」 講師 鎌倉歴史文化交流館学芸員 山本みなみ 氏

※開催形式および申込方法等については、大学ホームページをご確認ください。

＊本願寺書院・飛雲閣拝観(前期)＊

- 日時 6月22日(水) 15:15~17:00
- 場所 本願寺書院・飛雲閣・唐門
- 募集人数 30名(先着順)
- 参加費 無料

※申込方法等は京女ポータル、宗教部掲示板または宗教教育課(仮設校舎A2階)で確認してください。



芬陀利華アンケート

読んだ感想やコメントをお寄せください。(すぐに答えられるアンケートです)

シリーズ 智慧の蔵(45)

『ジャイナ教とは何か—菜食・托鉢・断食の生命観—』

上田真啓 著 風響社 二〇一七年

ジャイナ教とは何か—菜食・托鉢・断食の生命観—(ブックレット)『アジヤを学ぼう』(49)

ジャイナ教は、二五〇〇年前にインドで誕生した土着の宗教です。祖師のマーハヴィーラ(別名、ニガンタ・ナータプッタ)は反バラモンの出家修行者で、釈尊と同時代に活躍した思想家です。仏教とは異なり、ジャイナ教は誕生から現在にいたるまで、一度も途絶えたとなくインドで信仰され続けています。ジャイナ教徒の数はインドの他の宗教に比べて少ないものの、教育水準が高く、ビジネスや学問の世界で活躍している人が多くいます。

ジャイナ教といえは不殺生と無所有の教えが有名です。不殺生は、生き物を殺さないだけでなく、傷つけないことでも、無所有は必要最低限の物しか所有しないこと、出家者のなかに一糸まとわず修行する者もいます。そして、最も特徴的なものは食生活です。彼らは不殺生を守るために肉食を断じて、解脱に向けて断食をおこなうこととあります。

こうした私たちにあまが馴染みのないジャイナ教の入門書としておすすめしたいのが、上田真啓氏の『ジャイナ教とは何か』です。著者は、彼らの生活や思想を分かりやすく紹介してくれています。なかでも興味深いのは、ジャイナ教の菜食主義についてです。彼らは、動物だけでなく、植物にも生命が宿っていると考えます。なので、野菜を食べても殺生に当たることがあります。それでは、不殺生のために何も食べないのでしょうか。当然、生きていくには食べないわけにはいきません。そこで、彼らは殺生を極力控えるために、工夫を凝らした様々な食事の規則を設けます。例えば、ナスやトマトを食べるはいけない、日没後はなるべく食事をしないなど、どうしてこれらが殺生を避けることにつながるのでしょうか。ジャイナ教の「生命観」という観点から著者はこれらの行動原理を解説してくれています。さて、こうしたジャイナ教の菜食や不殺生の教えに触れると、なかには「ジャイナ教徒が大変だなあ」とネガティブな感想を抱く方もいるでしょう。しかし、著者は「あとがき」で、彼らが厳格な規則に縛られて暮らしているわけではなく、決してないと言います。そして、ジャイナ教徒と交流して、彼らが規則を守りながら豊かな生活を送っていることを知ってほしいと述べます。著者が言うように、実際に交流してこそ本当の意味で「ジャイナ教とは何か」が分かる日が来るのかもしれない。

(壬生 泰紀)